

# 入試分析 国語

・出題順や点数配点は25年度と変わりなし。全体として例年並み

問一 漢字の読みと書き・俳句の鑑賞 配点20点 易しい

- ・(ア)も(イ)も基本的な出題で迷うものはあまりない。
- ・(ウ)の俳句も、消去法を使って選択肢の中から不適切な部分を見つければ解きやすい。

問二 物語文 配点24点 やや難しい

- ・明治時代の写真家を主人公にした作品であった。フェノロサや岡倉覚三(岡倉天心の本名)との出会いから自分の写真に足りないものに気づいていく様子が描かれている。現代の作品ではないので苦戦した生徒もいるかもしれない。
- ・傍線部分の近くに答えを選ぶための根拠があり、選択肢も消去法を使って絞りやすい。(オ)が1か2で迷ってやや難しい。

問三 論説文 配点30点 やや難しい

- ・「身体」をキーワードに人間とAIを比較しながら、人間が優れた知識形成を行っていることを訴えている文章であった。言葉遣いがやや難しく内容を掴むのに苦労した生徒もいるかもしれない。
- ・(イ)は、助詞「と」の識別問題。過年度に遡ると助動詞4回、助詞8回、副詞1回が出題されている。
- ・(ウ)は、「模倣」の対義語を選ぶ問題。3年連続で同様の出題がなされている。
- ・傍線近くに答えを選ぶための根拠があり、選択肢も消去法を使って絞り込んでいけば正答に辿り着く。選択肢それぞれを一気に読むのではなく、前半後半に分けて本文との矛盾を探して×をつける手法をお勧めしたい。

問四 古文 配点16点 易しい

- ・「宇治拾遺物語」からの出題。助動詞の「けり」「たり」「む(ん)」「ぬ」などの意味を覚えて「古文を読む」に慣れていれば大意も掴みやすい。

問五 資料の読み取りと記述 配点10点 易しい

- ・(ア)は選択肢を2か4に絞り、後半のⅡに当てはまるもので答えを出せるようになっている。
- ・(イ)の記述は、指定された語句が文章ⅠやⅡでどのように使われ、それを「まとめ」の文でどのように言い換えているかに意識を向ければ取り組みやすい。

## 入試に向けての学習のポイント・アドバイス

- ①読解力をつける＝知らない語句の意味を調べて覚える。古文の基本単語と文法を覚える。
- ②物語文は登場人物と感情を追う＝主語は誰か。感情が分かる語句をチェックする。
- ③解き方を身に付ける＝対比・言い換え・筆者の主張を追う。選択肢は本文と見比べて考える。